

行政視察等報告書

平成30年11月27日

米子市議会議長様

会派名 政英会

代表者氏名 尾沢三夫

提出者氏名 奥岩浩基



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	岡田啓介、奥岩浩基、尾沢三夫、戸田隆次
期日	平成30年11月20日
〔概要〕（年月日・場所・内容） 平成30年11月20日 鳥取市下水道庁舎（鳥取市秋里903番地） 「下水管路施設における包括的民間委託について」	
〔所感〕 別紙のとおり	
経費	旅費合計 2,880円

鳥取市 行政視察の報告

1. 視察日時

平成 30 年 11 月 20 日 (火)

14 時～15 時 30 分

2. 場所

鳥取市環境下水道部下水道管理課

3. 事業概要

- ・公共下水道施設 10 施設
- ・集落排水事業施設 61 施設

4. 事業沿革

- ・平成 24 年 4 月より鳥取市下水道事業の公営企業会計への移行
(公営企業会計の一部適用)
- ・平成 24 年 4 月より包括的民間委託の導入
- ・管渠と処理場を一体として包括した経緯
受託者が処理場と管渠を同時に管理し不明水と漏水の問題が解決することを期待。

5. 包括的民間委託導入によるメリット・デメリット

- ・メリット

性能発注により、受託者の自由裁量となり、民間事業者の能力、ノウハウが発揮される効果により、ユーティリティ等のコスト縮減、維持管理の質の向上が期待できる。

処理場の維持管理は流量等と密接に関係しているため、処理場と管渠を同時に管理することで、不明水や漏水対策の解決につながる。

本庁一元管理による支所の人件費の縮減。

事故や苦情等に対する迅速な対応が可能。

- ・デメリット
職員の技術力の低下、技術の継承の問題。

6. 包括的民間委託の評価

- ・公共人件費の削減
- ・放流水質の安定化
水質基準超過が減少
- ・住民対応の迅速化
- ・コスト削減
電気使用量

7. 包括的民間委託の課題

- ・不明水対策
- ・コスト削減、標準化
一定の効果が現れたが、各年度でバラつきがある
- ・ユーティリティの変動リスク
重油単価、電気料金の変動が激しく今後も不確定な為、受託者のリスクが大きくなることも予想される。

8. 所感

鳥取市の公共下水道整備率は平成27年度末で93.3%、湖山池流域公共下水道整備率は75.3%と、米子市と比べ30%近く高い整備率である。また、今後平成38年度末に向けて公共下水道整備率を98%、湖山流域公共下水道整備率を93%と目標を掲げている。

本市と比較し、高い整備率を示す鳥取市は平成16年の平成の大合併で8町村と合併し、それぞれの8つの総合支所に配置されていた職員の再配置を検討し、コスト削減の観点と維持管理体制のから一元管理を開始。そして、平成24年に包括的民間委託を導入。メリット・デメリット、及び評価・課題については前述の通りであるが、実際が一番の大きなメリットは「住民サービス」の向上である。導入以前は下水道の事故や苦情に対する対応が遅かったが、導入後は対応が早くなりまさに公共サービスのお手本として日夜業務にあたっている。

米子市とは下水道整備率が違う地域ではあるが、地区によって公共下水や集落排水を置き、更には維持管理体制も向上し、住民サービスも向上した鳥取市の案件は大いに参考にすべきものと感じた。

行政視察行程 会派：^{せいえいかい}政英会【岡田啓介、奥岩浩基、尾沢三夫、戸田隆次（4名）】※岩崎康朗 欠席

月 日	行 程
11/20 (火)	<p>11:40 <所要時間 自家用車にて約2時間> 13:40 米子市役所 ===== 鳥取市下水道庁舎</p>
	<p>鳥取市行政視察 午後2時00分ごろから1時間30分程度 【調査項目】 下水管路施設における包括的民間委託について</p> <p style="text-align: right;">議会事務局 電話：0857-20-3343</p>
	<p>16:00 <所要時間 自家用車にて約2時間> 18:00 下水道庁舎 ===== 米子市役所</p>

